



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さまと協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.46

地域連携病院④「医療法人 藤野会 成田病院」

今回は、美馬市脇町にある成田病院をご紹介します。

■地域医療の“なんでも屋”



成田病院の歴史は古く、江戸時代まで遡ります。大阪泉州より脇町城主の御典医として移り住み、その後、享保年間に成田探中が脇町で医業を開設したのが始まりとされています。成田病院としては昭和40年に開業しました。開業当時、病院が少なく、外科、内科、産婦人科など、あらゆる医療が必要とされてきた地域において、医療の“なんでも屋”として尽力し、その時々で求められる医療のニーズによる変化はありますが、一般診療に加え二次救急の受け入れ、学校保健にも熱心に取り組むなど、今日に至るまで地域医療を担ってきました。

また、このコロナ禍にあって、成田病院では早期より発熱外来の設置、PCR検査の迅速診断機器導入、新型コロナウイルスワクチン接種を積極的に行うなど、地域における新型コロナウイルス対策にも力を注いでいます。

■地域医療の要として

成田病院は地域医療の“なんでも屋”かかりつけ医として、日常から看取りまで地域住

民に寄り添う医療を実践し、徳島大学病院などの急性期病院からの受け入れや末期患者さんの看取りなどにも対応しています。成田病院のある県西部は高齢者が多く、成田病院でも往診、訪問看護、訪問リハビリや通所リハビリ(デイケア)といったサービスを提供して、そのニーズに応えるとともに、サテライト施設として成田診療所やグループホーム成田を有しています。

ただ、近年この地域では入院施設を有する病院が急速に減少しており、住み慣れた地域で療養を希望する患者さんの受け入れ先が少ないことが問題となっています。成田病院では、病床58床(医療療養型46床、介護療養型12床)を有しており、藤野院長は「高齢者の多い地域なので、介護者と被介護者がともに高齢者である老老介護が多く、在宅で介護を行うことは容易ではありません。そのような場合に入院施設はどうしても必要になってきます。地域医療の要として、今後も変わらず地域に貢献していきたい」と語っていただきました。



成田病院から見た美馬市の自然

「地域医療連携」について

徳島大学病院患者支援センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しをめざして、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。

問い合わせは

医療法人 藤野会
成田病院

徳島県美馬市脇町字拝原2576
TEL.0883-52-1258

■説明は

藤野 晴彦(ふじの はるひこ)院長
藤野 祐子(ふじの ゆうこ)医師

